

第 40 回 ECE プログラム委員会幹事会 議事録

1. 日時：平成 29 年 5 月 30 日（火曜日）15:00-17:00
2. 場所：日本工学会（森戸記念館 第二会議室）
3. 出席者：（アンダーラインで示す、なお以下敬称略）広崎膨太郎、石原直、武田晴夫、秋永広幸、渡邊 誠、加藤穂慈、京谷美代子、田辺朗、松村正明、持田侑宏、奥津良之（記録）
4. 配付資料
 - 資料 40-1 第 39 回 ECE プログラム幹事会議事録（案）（H29/13/23）
 - 資料 40-2 SICE プロセス新塾 ECE プログラム推進委員会（H29 年度状況報告）
 - 資料 40-3 第 7 回 ECE プログラム委員会 議事録（案）（H29/4/4）
 - 資料 40-4 エレクトロニクス系ハードウェア高度技術者養成 ECE プログラム企画案（再改版 5/25 バージョン）
 - 資料 40-5 エレキ・ハード ECE 検討資料（再改版 5/25）・・・いわゆる「青写真」
 - 資料 40-6 H29 第一回 CPD 協議会公開シンポジウム FLYER
5. 委員長挨拶 本日はとくにエレキ系 ECE の審議討論を期待する旨挨拶戴き審議に入った。
6. 前回議事録（案）確認
指摘無く 議事録は承認された。
7. 各報告

（1）特別報告

武田委員から（公社）日本工学アカデミーの中に組織されている SDGs（Sustainable Development Goals）に対する我国の政策を提言する TASK LEADER の立場で、5 月 15～16 日 NEWYORK 国際連合 STI フォーラム（Science, Technology and Innovation for SDGs）でご講演され、好評を博した Presentation の、内容と背景を平易な解説を交え報告いただいた。とくにアジア圏での SDGs に精力的に貢献してきた内容が強調された。

関連 HP

<https://www.eaj.or.jp/?p=4087> （←日本工学アカデミー武田リーダー関連 NEWS）
<https://sustainabledevelopment.un.org/tfm> （← 国連 SDGs）
<https://sustainabledevelopment.un.org/index.php?page=view&type=20000&nr=1202&menu=2993> （←ECE プログラム委員会 中村道治委員関連）
http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_004595.html （←ECE プログラム委員 岸輝雄先生関連）
<http://www.huffingtonpost.com/entry/591ece7ee4b0b28a33f62b2e> （←HUFFPOST 誌に掲載の日本国および日本企業の SDGs 取り組みに対する賛辞が述べられている。）

工学会 ECE 委員会も刺激として EAJ (The Engineering Academy of Japan、日本工学アカデミー) と連携を検討すべきではないか? との示唆も武田委員から戴き、今後継続して参考にすることとした。国家レベルでの Science, Technology and Innovation 支援姿勢を踏まえ、ECE も審議の活性化を図りたい。

(2) NIMS ECE 状況報告 物質・材料基礎 ECE プログラムの H29 年度は 4 月 4 日プログラム委員会で継続申請が承認され(資料 40-3 参照)、その後も実施状況は順調との連絡を渡邊幹事より受けている旨、奥津委員より代行報告があった。

(3) SICE 奥津委員より、4 月 4 日継続申請が承認された(資料 40-3 参照)、プロセス新塾 2017 の実施状況につき報告があった。

●今年度は 39 名の応募者が 来る 6 月 2 日の開講式をもって塾生として研鑽生活をスタートさせる予定である。(39 名内訳参加者名簿を口頭で紹介した。) 業界紙「計装 4 月号」にプロセス新塾特集記事を 20 頁掲載したことの広報効果は絶大であった、と分析された。

●2017 開講式では昨年度スーパ受講生による 10 分間プレゼンテーションを実施する。

●本プログラムは 2016 年度工学教育賞 (JSEE 主催) を受賞する。来る 8 月 29 日 JSEE 第 65 回年次大会にて北森塾長(代表)が顕彰される予定である。

委員長コメント・・・順調であることを評価する。一方で現在 ECE-WG では実際にステアリングしているプログラムは、NIMS, SICE, そして産総研(試行中)でしかない。至急 プログラム数を増やすべきである。そこで、このルーチン化された塾手法を ECE の具体的手法好例として他分野プログラムに横展開して行きたい。まずエレキ人材 ECE プログラムに照準を当てプログラム開発活動を加速したい。(* 後述あり)

(4) 産総研 IoT プログラム(開発中)は準備順調に推移の旨奥津幹事が代行報告した。

(5) エレキ・イノベーション人材 ECE プログラム Feasibility Study につき 資料 40-5 をもとにして全員でデスクッションを実施。

●エレキハード技術継承はどの企業も現場任せで、壊滅的。組織的に教育が行われていない。技術者は仕様書を作るだけの毎日で、技術水準が落ちている。事態は日に日に悪化し、一刻の猶予もない状態である。すぐさま SICE 塾手法を横展開・適用して開発を加速したい。(委員長談)

●講座構成は 原案 でほぼ完璧との全委員意見であった。

●基本的には電気通信情報学会・電気学会・情報処理学会の連合に主体を任せたい。

●技術士会も協力できるかもしれない(松村委員談)

●SICE 塾を参考にすが、より少し若い受講生を狙う。(実務 5~10 年技術者対象)

●塾長は 服部武 先生(上智大客員教授)に広崎委員長から打診中である。人格者

<http://rscdb.cc.sophia.ac.jp/Profiles/72/0007161/profile.html>

●SICE 塾の実績から 奥津幹事が 第一次検討メンバを招集し 具体的組織化を進める。

京谷委員・武田委員・石原委員は TASK メンバーとして適宜協力いただく。

●実習を含むため、その準備として夏に「新川崎創造の森 NANOBIC, 4 大学コンソーシアム」の視察見学を EOE 幹事会で行う。（担当奥津 6 月末先方現地打診、8 月末現地会実施希望）

●組織化マネジメントを具体的に進めてください。（委員長指示）

以下ご参考に第 39 回幹事会メモを再掲載しておきます

●実習場所の候補地として 新川崎・創造の森 産学交流・研究開発施設のご案内パンフレット一式を全員で読み込んだ。ただ、詳細は次回石原先生にお伺いしたい、ということで 一旦保留。

●武田委員から まず中心になる方 を決めるべき、との意見を戴き、検討を進めることとなった。

●プログラムにつき 「青写真」を作るようタスクメンバに対し、委員長指示を戴いた。

今後タスクで検討する。

次回（第 41 回会合）は 2017 年

8 月 1 日(火) 15:00~17:00 を申し合わせて閉会とした。

なお その後会議室が森戸記念館確保できませんでしたので、島田事務局殿にお願いして、**機械振興会館 地下会議室 B3-8** が予約できました。

恐れ入りますが 次回は 機械振興会館（最寄駅は神谷町 OR 浜松町 OR 大門）です。

<http://www.jspmi.or.jp/kaigishitsu/>

また当日は石原先生のお誕生日も重なりますので 地下三階 料理屋うすい で慶事暑気払い交流会を催行いたします。3000 円~4000 円で予定します。みなさま是非参集ください。（幹事奥津）

以上